



信

文

内教
卿
建
言
寫

3211



114
A1311



管窺概畧

ノ事至重至難一朝夕ノ能ク終シ一紙凡ノ能ク盡
ハ非サルナリ然レ此今屢下問ヲ辱ス故ニ目下最
当ニ勉ムヘキノ要點ヲ下條ニ掲ケ敢テ謹呈ス

第一日 現行紙幣ヲ減却スル事

現行發行ノ紙幣ハ實ニ一億一千餘万圓ノ多キナリ
之レカニ金引撥ヲナスヤ否又難シ故ニ先準備金ノ
都合ヲ計リ凡一千万圓ヲ断裁シ又一千五百万圓ヲ
以テ金札引換公債證書トナス一シ是レ或ハ現今紙幣
ノ下落ヲ維持スルノ一助トナルヲアラン而シテ又外國為
替金ヲ以テ年々準備ノ増殖ヲ謀ムベシ其既ニ増殖
シテ若干万圓ノ高ニ至ルハ又現今ノ紙幣ヲ變シテ

大天
正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

正金兌換ノ結算トナスラ日達トシテ漸次減却シ盡ス
法ニ遵フヘシ決シテ危峻ノ策ヲ用フヘカラス

第二日 海關稅ノ事

現今海關收入ノ稅額ハ凡二百五十萬圓ヲ得ヘシ

第三日 官有鑛山收入金ノ事

諸鑛山ヨリ得ル所ノ利益ハ大約五十萬圓ナリト雖氏
實際或ハ多キヲ加フルトアルヘシ

第四日 民有鑛山ノ出礦ヲ買入ルノ事

此買入金モ亦凡五十萬圓ナリヘシ然レトモ又實際ニ
精調セハ或ハ高才多キトアルヘシ

第五日 廣業會社及三池炭礦ノ事

廣業會社ハ現ニ北海道ノ物産ヲ清國ニ直輸ス其額
堅スルニ百萬圓ヲ下ラス三池石炭モ亦清國ニ販賣
シテ五十萬圓ノ高ヲ得ヘシ合シテ百五十萬圓トナル以金
ハ上海或ハ香港ノ各地ヨリ直ニ為替ヲ以テ龍動ニ送ル
ヘシ

第六日 生絲茶葉其他輸出品為替ノ事

生絲茶ノ輸出ヲ二百萬圓ト概定シ之レニ工商會社
等外國ノ物品ノ輸入ヲ為スモノ、金額凡ク五十
萬圓ヲ加ヘ合セテ二百五十萬圓是レ又為替ヲ以テ外
國ニ送ルヘシ

第七日

輸出品に概して買付所を横濱に設くる事
生絲茶等年々横濱に運送せしむる販賣の時、臨三
戸常々外商ノ為メニ其賣價ヲ左右セラルト雖
此貨主カ資本ノ薄弱ナル遂ニ庫敷其他ノ費
用ニ堪ハル能ハズ看ル外商ノ衝中ニ陥リテ低價
ニ賣却シ大ニ失敗ヲ犯タモノ以テ皆然リ故ニ今發
行所(即チ正金銀行ヲ云フ)ヲ設テ物品ヲ概して
テ相互ノ金ヲ貸與セシメ物品販賣ノ後ニ貨ヲ
以テ償還セシムルニ
以上ノ數日ハ正貨ヲ收集スルノ要ヲ掲ク

第八日

米穀ノ輸出ヲ禁スル事
現今我國ノ情勢タル米穀少シク騰貴スレバ人民忽

窮迫シ随テ變動ノ憂アリ故ニ人民カ米穀輸出ノ一
體ヲ停止シ權利官ニテ專ラテ特權ヲ有スルニ是レ米
價ノ騰貴ヲ防クニ不得也ノ一策ナリ

第九日

外産ノ米穀ヲ買入貯蓄スル事
第二ヨリ第七ノ諸日ニ依リテ得ル所ノ正貨ハ勉ト
メテ準備ニ増加シ以テ紙幣ノ價格ヲ維持スベシ又
時トシテハ西貢等ノ各地ニ就テ安價ノ米ヲ買ヒ如シ
二十万石ヲ得ルトスレバ其事類ツテ以テ東京大阪
ノ米價ニ貯蓄シ凶荒ノ預備トナシ人民窮乏ノ時ニ
臨ニ原價トハ低價ニテ拂出スルニ
以上二日ハ米價騰貴ヲ防クノ要ヲ擧グ

第十目

農工高ク新奨シテ物産ヲ増殖スル事

貿易ノ本タルヤ農工高クシテ外ナラス故ニ商
モ農ニシテ開ケス工ニシテ進マス商ニシテ明ナラスハ猶
盲ニシテ見ルヲ欲シ龍身ニシテ開クヲ欲シ咄ニシテ言フ
ヲ欲スルカ如キナリ其レ此ノ如シ莫ク能ク一國ノ富強ヲ
致シ財政ノ真理ヲ得ルモノアラシヤ三者尋ラズンハ百
改无解スル期シテ待ツヘシ

第十一目

徒手ノ士族ヲシテ産業ヲ起サシムル事

全国ノ士族能ク其業ニ就クモノ現今果シテ幾許ア
リヤ大率皆徒手沈淪日ニ窮乏ニ趨ク今ハ輩ヲ
誘導シテ各其産ニ就カシムルヤ又許多ノ資本ヲ
要スヘシ今則未開ノ地ノ多キヲ現今猶十中ノ八ヲ

ヲ占ム未開ノ地漸次悉ク開拓セラルヘカラス地ノ開拓
又頗ル資本ヲ要ス宜シク徒手窮乏ノ士ヲ誘導シ開
拓以テ其産ヲ起カシムルオハ是レ所謂一擧シテ兩全
ヲ得ルノ策ナリ人ニ無産ノ人アリ地ニ未開ノ地アルハ國
家ノ損失之レヨリ大ナルハナシ況ニヤ士族ノ輩徒手
沈淪其嚮フ所ヲ知ラカレハ遂ニ國家ノ交乱ヲ醸成
スルノ憂アルニ於テシヤ

第十二目

海外為替正金銀行ヲ設立スル事

現今財政ノ急務ハ内國ノ物産ヲ興シ海外ニ物貨
直輸ノ便ヲ開キ以テ貿易ノ權利ヲ掌握スルヲ謀
ルニ在リ其要旨ハ正金銀行ヲ設立シ西洋ノ要地
ニ向テ兌換ノ行ヲ行フヘシ故ニハ銀行ハ最確實ニ

シテ外人ノ信任ヲ失ハカレモ、ヲ至要トス
此銀行ハ物貨直輸ノ爲メ、兌換スルヲ專業トス
而シテ積弊ノ弊行ヲ許ルサレハ、(一)
直輸出品ノ賣上金ハ官用并人民需用品買上ノ外常
ニ在外銀行ニ留メテ多ク餘裕アラシムルヲ得策トス
人或ハ曰フ輸出品ハ種々、須在商ニ就キテ販賣スルヲ
甚ク便ナリト此説大ニ誤テリ何トナレハ其賣買上
間接ノ利益皆盡ク外商ニ占有セラレテ其害ノ大
ナルヲ舉テ數ハ難シ
又或ハ曰ク輸入ノ品ハ外商ヨリ買フヲ甚廉ナリト
其然リ豈スレ然ラシ今在外日本商ノ手ヲ徑テ直
買スルハ其外商ヲ徑ルナリ彼レニ占有セラレ、利
益ハ皆内商ノ手ニ歸シテ即チ日本ノ益トナル

ナリ

第十三目 貿易會社ヲ設立スル事

凡ソ物品ヲ輸出シ或ハ之ヲ輸入スルモ其間必
許約ノ行アリテ彼此互ニ其信ヲ失フアハ、貿易
上ノ第一至害ト謂フ(一)
故ニ正確ナル會社ヲ設ケ物品賣買ノ爲メ、其法
ヲ定メ彼此ノ信用ヲ固クス(二)

第十四目 生絲會社ヲ設立スル事

輸出ノ生絲ニハ往々奸計ノ所力不良ノ製作
アリテ一般ノ聲價ニ信用ヲ損スルモノアリ故ニ特
ニ此會社ヲ設立シ嚴ニ其詐ノ弊ヲ矯メ製作
ノ法ヲ正シ絲ニ大小不齊ノ事ナク大ニ其品位ヲ

改良シ益輸出盛ヲ養セザルコトカラス以會社
設立甚多至要ノモノトス

第十五日 節侯精神ヲ養フマコト事

節侯ノ一タル一言ニシテ之レヲ云ハハ曰ク冗費ヲ省
クナリ冗費ノ一其類ニ極メテ多シ然レトモ庶議
時トシテ節侯ノ令ヲ下タスアルニ徒ニ官省ノ人貢ヲ
沙汰モ或ハ事業ヲ中止スル等大ニ財政ノ理ヲ
失フモノアリ是レ等ノ一ハ只ニ外部ノ節侯ニ屬ス
ルノミ敢テ真正ノ一トセズ真正ノ節侯ハ何ソ凡
官省ニ長タルモノ善ク其心ヲ同一ニシ其行フ所ヲ顧
ミ及省沈思セハ無用ノ一自カラ除キ無用ノ費自
カラ省ケン之ヲ小ニスレハ各省ノ定額ヲ減省シテ用

幣ヲ充タシ之ヲ大ニスレハ貿易ノ權利ヲ回復シテ
大ニ財政ノ衰頹ヲ救フヘシ節侯ノ用益シカ大
ナル哉

第十六日 正貨ヲ以テ為スヘキノ一ハ殊ニ節侯ヲ用フヘキ

事

此日最至要ナリトス外國品購買ノ一宜シク意ヲ用
フヘシ

第十七日 民業ニ関スル事業ニ断然民有ニ歸セシムヘキ
事

勸業ノ法固トヨリ多シト雖モ現今政府ノ事業ニ
テ其民業ニ屬スルモノハ有志人民ノ請願ニ應ジ

ヲ下付ス(キモノハ)勉メテ之ヲ下付ス(シ)

第十八日 印刷局ノ事

此局ノ事業ハ前日ニ謂フ民業ニ属ス(キ)最々
ルモノナリ

現今紙幣ノ下落セシ一原因ハ此局ノ官有ニシテ殊ニ
大蔵省ニ属スルカ為メノ故ニ政府ハ恐マシ紙幣ヲ製
造シ新田ノ引換ヲ以テ名トナスモ其実只ニ新札ヲ
増加シ其底止ル所ヲ知ラスト人民中自カラ粘念ヲ
生スルノ多キニ歸セサルヲ得ヌ現ニ聞ク所ニ依レハ
民間ニ於テ紙幣ノ求引上五十枚以下ノ小紙幣ハ一
圓以上ノ紙幣ノ如ク價位甚ク低下セヌ大ニ信用ヲ存
セリト怪シテ其故ヲ問ハバ曰ク小紙幣ノ製造ハ

官ニ於テ甚ク益スル所アラズ一圓以上ニ及リテハ製
造ノ高愈多クシハ政府ノ益スル所愈多シ目下小
紙幣ノ流通ニ乏シキハ政府ノ増製セサルニ因リト嗚
呼人民カ無替ノ甚シキニ何ヲ以テニ至ルヤ然リト
雖此事一概ニ人民ノ無替ニ歸シテ之ヲ咎ムカ
ラス恐ラクハ官ノ民情ヲ察スルノ密ナラス其嫌ヲ
避クルニ當テラサルノ拙ク所ヤ語ニ曰フ凡福福吉
凶ノ外ヨリ来ル必内自ラ之ヲ拙クアリト故ニ願ハ
ルハ印刷ノ事速カニ人民ノ所有ニ歸セシメ以テ其弊
心ヲ殺ス(シ)

以上數日ハ目益ヲ謀ル基業ノ大目ヲ掲ク
右ハ目下五金ノ不足ニ苦シニ適テ紙幣ノ下落ヲ生セリ
故ニ只之ヲ救フノ急策ヲ立ツルニ當ル然レトモ延ヒテ

之ヲ永遠ノ財政ニ施スモ亦教テ其法ヲ誤ラサレ
蓋ニ運用ノ妙只一心ニ存スルニ
到ル理財ノ真理定則ヲ得ルハ正算ノ通用ニ在ル
中明カナリト英氏今ノ時ニ在リテ苟モ往日ノ成海ヲ
後セス將來ノ変動ヲ慮ハカラスンハ誤ヒ真理定則ノ
説ト曰フトイハ氏決ニテ信ヲ其成果ニ指タリ孰ハサレナ
リ

